

輪作プランを立てて、作業効率と収量をアップさせましょう!

連作障害の目安

(特定の場所に植えてから空けないといけない年数)

	野菜名(科名)	連作障害
葉菜類	カリフラワー、ハクサイ、ブロッコリー(アブラナ科)	2~3年
	キャベツ、コマツナ(アブラナ科)	1~2年
	シュンギク(キク科)	1~2年
	タマネギ(ユリ科)	出にくい
	ハウレンソウ(アカザ科)	1~2年
果菜類	カボチャ(ウリ科)	出にくい
	キュウリ(ウリ科)	2~3年
	スイカ(ウリ科)	5年
	トマト、ピーマン(ナス科)	3~4年
	トウモロコシ(イネ科)	出にくい
	ナス(ナス科)	5年
根菜類	カブ、ダイコン(アブラナ科)	1~2年
	ゴボウ(キク科)	5年
	サツマイモ(ヒルガオ科)	出にくい
	ジャガイモ(ナス科)	2年
	ニンジン(セリ科)	出にくい

野菜をローテーションして、連作障害を避けましょう

作付け計画では、何を、どこに、いつ、どれだけ植えるかを考えます。作業の効率化と収量アップのために欠かせないひと手間です。計画を立てる大きな目的の一つが連作障害の回避です。同じ場所と同じ科の野菜を続けて育てていると、連作障害の影響で2年目以降の収量が低下します。これを避けるために、畑をいくつかのブロックに分け、野菜をローテーションして栽培する輪作を行います。輪作は、3~4年で一巡を目安にしましょう。

根菜類を植えると土が生き返る

輪作のコツは、同じ科の野菜を続けて栽培せず、葉菜類、果菜類、根菜類をできるだけローテーションすることです。例えば、根の張りの浅い葉菜類の後には、ゴボウやヤマイモのような根の深い根菜類を育てるようにします。根菜類は、植え付けや収穫時に深く畑を掘り返すので、天地返しも同時に行うことができます。土がリフレッシュされます。また、トウモロコシのように土の中に残った余分な養分を吸収して、後作の作物の生育を助ける野菜もあります。このように野菜ごとの特徴を輪作につまみ組み込めば、作付けの幅が広がります。

輪作のモデルケース

多くの野菜で、3~4年間を空ければ連作障害は起きにくくなります。1年目の1区で作付けした野菜を2年目は2区へ、3年目は3区へとスライドさせて輪作し、時折、深耕が必要なら根菜類を作付けします。



1年目	1区	春 ナス、ピーマン(ナス科)	秋 キャベツ(アブラナ科)
	2区	ニンニク(ユリ科)	
	3区	春 トウモロコシ(イネ科)	秋 ダイコン(アブラナ科)
	4区	春 キュウリ(ウリ科)	秋 イチゴ(バラ科)
2年目	1区	ゴボウ(キク科)	
	2区	春 トマト(ナス科)	秋 コマツナ(アブラナ科)
	3区	春 エダマメ(マメ科)	秋 レタス(キク科)
	4区	春 トウモロコシ(イネ科)	秋 カリフラワー(アブラナ科)
3年目	1区	春 キュウリ(ウリ科)	秋 ニンジン(セリ科)
	2区	ゴボウ(キク科)	
	3区	ヤマイモ(ヤマノイモ科)	
	4区	春 インゲンマメ(マメ科)	秋 シュンギク(キク科)
4年目	1区	春 トウモロコシ(イネ科)	秋 レタス(キク科)
	2区	春 キュウリ(ウリ科)	秋 ニンジン(セリ科)
	3区	春 ツルムラサキ(ツルムラサキ科)	秋 ハウレンソウ(アカザ科)
	4区	春 ナス、トマト(ナス科)	秋 ダイコン(アブラナ科)

